

令和2年度NPO活動推進補助金 活動報告書

事業名	オンラインを活用した外国人留学生の地域交流体験モデル事業
団体名	ドネルモ
法人設立年月	2006年4月
団体の目的	本法人は、超高齢社会の状況を見据えた上で、他者の存在や関わりを通じて1人ひとりの可能性がカタチになるような関係やしきみを生み出しながら、自分たちの暮らしを自分たちで作っていかうとする文化を育むことを目的とする。
主な活動	(1) 超高齢社会を担う人材及び団体の育成・支援事業 (2) 超高齢化に対応した社会のしくみづくりに関する事業 (3) 超高齢社会に関する調査研究および啓発事業
補助事業の概要	<p>I 背景</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、日本人住民との地域交流や日本文化体験等が、これまでのやり方（例えば、公民館等における日本人住民との交流、餅つきなどの地域行事への参加、小学校での読み聞かせ等）での開催が困難な状況にある。日本に来たばかりの外国人留学生は、特に地域社会での交流機会がなく、孤立しがちである。地域社会において、生活様式や文化の違いから、日本人住民と外国人住民との間に軋轢が生じることも少なくない。日本人の多文化共生への理解や意識啓発のためにも、外国人住民との交流の機会の損失を防ぐ必要がある。</p> <p>本事業の目的は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生にとって生きた日本語の学びの場となる地域交流や文化体験の機会損失を防ぐこと。 ・オンラインツールを活用した新たな地域交流体験プログラムの実現を通じて、外国人留学生と日本人住民との新たな交流プログラムの創出や協力者の掘り起こし。 <p>II 事業内容</p> <p>以下の取組みを実施した。</p> <p>■外国人留学生と日本人住民が交流できるオンライン授業のプログラムの企画及びコーディネートの実施</p> <p>1 オンラインを活用した地域交流体験プログラムづくりの準備・企画及びコーディネートの実施（地域交流体験プログラムづくりに向けての準備）</p> <p>日本語学校「愛和外語学院（東区馬出）」の外国人留学生や学校職員にヒアリング調査を行い、オンラインツールを活用しても実施可能なプログラムづくりを行った。</p>

2 オンラインを活用した地域交流体験プログラムの実施

① 愛和外語学院の授業の中で、学校及び学外講師と連携しながら、外国人留学生と日本人参加者対象に3つの地域交流体験プログラムを3回ずつ、オンライン会議ツールを使用して実施した。

- (1) 「合気道」で「道（どう）」を感じる
- (2) ニュースポーツ「ラダーゲッター」であそぶ
- (3) 福岡市の文化財と「福岡城跡」見学

3つのプログラムへの参加者数（各3回実施の合計）

	留学生	日本人	合計（人）
合気道	36	16	52
ニュースポーツ	63	20	83
福岡城	50	19	69
合計（人）	149	55	204

※学生の出身国：インドネシア、中国、ネパール、ベトナム、ミャンマー

② 愛和外語学院「学習発表会」の運営協力

毎年、愛和外語学院へは、全クラスが参加する学習発表会を実施している。授業に参加した日本人を対象に、参観及びコメンテーターとしての役割を依頼するなど、学習発表会参加に向けての広報や運営協力を行った。本事業の授業に参加した学生は、地域交流体験プログラムにて学んだことを発表した。

■ 本事業のミニ報告会&外国人留学生と日本人とのオンライン交流会を実施

本事業の報告会と同時に愛和外語学院の新入生のクラスとの交流会を行った。日本に住み始めて2~3ヶ月の留学生にとっては、学校やバイト先の日本人以外と日本語で会話する機会となり、有意義な場となった。

実施日時：令和3年3月19日 13:30~15:00

参加者数：日本人 14名 外国人留学生 18名 合計 32名

内 容：・「地域交流体験プログラム」事業報告会

・外国人留学生と日本人の交流会

テーマ「留学生が日本に住み始めて、思っていたよりもおどろいたことは？」

日本で暮らす中で日本人に質問してみたいことは？」

Ⅲ 成果及び展望

本事業では、オンラインツールを活用した地域交流体験プログラムの実施及びコーディネートを通じて、これまで日本語学校とはつながりが無かった日本人講師や参加者の掘り起こしを実践することができた。継続して授業に参加した日本人参加者からは、「日本在住の外国人と触れ合う機会が少なく、こうした機会はありがたかった。」や「これからも交流に参加したい」という

感想をいただいた。また、これまで外国人留学生との関りが薄かった日本人講師からは、「自分たちが得意としていることを外国人に分かりやすく伝える勉強になった」や「今後も留学生との交流に協力したい」という声があがった。

そのほか、「地域交流体験プログラム」に参加した留学生にとっては、当初、学校やバイト先以外で日本人と話すことに馴れておらず、緊張の面持ちであったが、回を重ねるごとに留学生からは笑顔を見ることができ、日本人と会話する実践学習の場にもなった。また、継続して全ての授業に参加した日本人は、最終回では留学生に伝わりやすいよう、やさしい日本語でゆっくりと話すなどを意識して実践していた。

したがって、本事業では、オンラインを通じて、留学生と日本人住民がお互いに気軽に交流することができる交流プログラムを創れることがわかった。これらのことから、本事業の実施は、目的への実現に向けて一定の効果があったといえる。

補足(1) 上記項目を満たしていれば、本様式以外を使用しても構いません。別紙記載例を参照してください。パワーポイント等で作成される場合は、10 ページ以内とします。

(2) 活動写真を2、3枚程度添付してください。

(3) この報告書は、市ホームページに掲載するとともに、寄付者に送付している活動報告書を作成する際に活用させていただきます。